各種計画評価シート

No. ２３

主管課：係名	福祉介護課　：　介護保険係
計画名称	第９期介護保険事業計画
策定の趣旨 （目　的）	平成 12 年に介護保険がスタートし 25 年以上が経過する中、これまで団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を見据えて行ってきた取り組みから、団塊ジュニアが 65 歳になる 2040 年を中長期的な目標年度と捉え、地域共生社会の実現に向けた取り組みにシフトしていく必要がある。第９期計画では、①持続可能な介護体制の整備、②地域包括ケアシステムの深化・推進、③高齢者の生きがいづくりと暮らしやすさを支える施策の推進、④住み慣れた場所で安心して暮らし続けられるまちづくり、を４つの重点目標とし、介護予防に資する地域づくりを推進して健康寿命を延伸しながら、多職種の連携を強め、地域包括ケアシステムの推進を目指す。
計画期間 〔策定年月日〕	令和６年度～　　令和８年度の　３　　年間 〔令和　６年　３月策定〕
総合計画、法令等の位置づけ	・策定の根拠となるもの 根拠法：介護保険法 上位計画：昭和町第６次総合計画、昭和町第４次地域福祉計画 関連計画：　高齢者保健福祉計画、地域福祉活動計画（社協）
計画の概要	・主な内容（特徴、予算、その他） ●介護サービスの見込み量を算定し、介護基盤整備を行う。また、３年間に要する介護給付費総額から介護保険料を算出し、適切な保険料基本額を設定し、健全な財政運営に取り組む。 ●地域包括支援センターの役割、介護予防事業の活性化、その他地域支援事業の取組（認知症施策、在宅医療介護連携、生活支援体制整備、高齢者権利擁護等）などを明記し、地域包括ケアシステムの推進を図る。
	・計画策定体制（計画を策定した組織・機関とプロセス） 組織：厚生事業計画策定懇話会　介護保険事業計画専門部会 過程：高齢者実態調査の実施→策定懇話会（1 回）→専門部会の開催（３回） →パブリックコメントの実施→懇話会において素案の承認
	・策定時の町民意見聴取手法 策定委員に第 1 号被保険者と第 2 号被保険者を含む。 パブリックコメントを実施し、広く意見を求める。
	・計画推進体制（計画を推進する組織・機関とそのプロセス） 福祉介護課介護保険係・昭和町地域包括支援センター・社会福祉協議会
	・目標設定の有無（数値目標の有無） 有
	・評価方法 毎年度末、年次計画の実施状況、数値を出して、評価を実施。 また、地域支援事業全般については、包括支援センター運営協議会において事業報告を行い、委員から評価をしてもらっている。

主な施策と 進捗状況	進捗状況（令和７年度末現在） ９期の３カ年計画の２年目である令和７年度は、介護予防の場に多くの参加者が戻り、認知症総合事業・生活支援体制整備事業・在宅医療介護連携推進事業・権利擁護事業といった地域支援事業も滞りなく推進できた。 認知症施策については、『認知症伴走型支援拠点』を委託しているひばり苑による中学生へのサポーター養成講座が開催された。また、イオンモールとイトーヨーカドーでの企業向けサポーター養成講座や地域への出張講座等も実施し、共生社会の実現に向けて着実に歩みを進めている。 生活支援体制整備事業は、第２層協議体の地域ごとの開催を継続しつつ、第３層協議体の立ち上げ支援を行い、新しく２つのグループが誕生した。 在宅医療介護連携推進事業では、夜間帯に昭和町在宅医療介護連携推進協議会を開催。さらに LINE のオープンチャット機能により、県央ネットの取り組みを紹介するなど情報共有を行い多職種連携を図っている。 権利擁護については、令和８年４月の中核機関の立ち上げに向けて、社協、三士会と話し合いを重ねるなど大きく前進した。 地域密着型サービス事業所の整備については、通所介護を１事業所新設。小規模多機能については応募がないが、通所介護とその他サービスを併用しながら需要を補うこととする。
未執行の施策と執行できない理由 〔課題 A〕	①地域密着型特養の入所率の向上 前時代的な運営を行っており、母体の法人もそれを容認しているため、なかなか改善が図られない。 ②介護現場の革新（介護人材確保・生産性向上） 全国的な課題であり、国・県でも、外国人人材の受け入れ、ICT 化、介護ロボットの導入などに取り組んでいるが、介護現場の人材不足は厳しい状況が続いている。
今後の計画の進め方 〔課題 A の解決策〕	① 地域密着型特養の魅力度アップのため、地域ボランティアや町立図書館の高齢者向け図書や大型絵本を活用することを運営推進会議で提案。 ② 国・県からの情報を介護事業所へ随時提供し、利用できる制度を有効活用していただくよう促していく。町としても事業所と連携できる部分は連携し、安定した運営が継続できるような支援を行っていく。
総合的な 自己評価	**計画全体の総合評価　〈　B　評価　〉** ランク分け　Ａ＝達成できた　Ｂ＝概ね達成できた　Ｃ＝一部達成できた　Ｄ＝ほとんど達成できていない **※上記評価となった理由** 地域包括ケアシステムの構築については、課題が多く、今後も各関係機関と連携して推進していく必要があるが、個別の事業については、滞りなく実施できている。現在の進捗状況を踏まえ「Ｂ：概ね達成できた」と評価した。

※参考資料がある場合は添付すること。